

安達三季生教授 略歴・業績一覧

(出版者 / Publisher)

法学志林協会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法学志林 / Review of law and political sciences

(巻 / Volume)

119

(号 / Number)

1

(開始ページ / Start Page)

3

(終了ページ / End Page)

13

(発行年 / Year)

2021-07-15

安達三季生教授 略歴

- 一九二七年三月 京都府にて出生
- 一九四八年三月 第三高等学校（旧制）文科甲類卒業
- 一九五〇年十一月 司法試験第二次試験合格
- 一九五一年三月 東京大学法学部法律学科卒業
- 一九五一年四月 東京大学法学部大学院特別奨学生
- 一九五四年四月 東京大学法学部助手
- 一九五五年四月 法政大学助教授
- 一九六四年四月 法政大学教授
- 一九六九年一月 東京家庭裁判所参与員
- 一九七八年一〇月 日本私法学会理事（一九八二年一〇月まで）
- 一九七九年四月 法政大学法学部長（一九八〇年三月まで）
- 一九七九年四月 法政大学評議員（一九八〇年三月まで）
- 一九八一年一二月 東京弁護士会懲戒委員（一九八五年一二月まで）

一九八三年四月 学習院大学非常勤講師（一九八六年三月まで）

一九八六年六月 日本信託法学会理事

一九八六年一〇月 法政大学健康保険組合理事長（一九九〇年一〇月まで）

一九九〇年一二月 法政大学経営倫理委員会副委員長（一九九三年一二月まで）

一九九七年三月 法政大学を定年退職

一九九七年四月 成蹊大学非常勤講師

一九九七年八月 法政大学名誉教授

二〇一九年一二月 逝去

安達三季生先生 主要研究業績

著 書

「Allgemeine Theorie des Wechsel- und Scheckrechts（手形・小切手法の一般理論）」

Peter Lang Frankfurt/M 1975 一九七五年

「債権総論」（通信教育用テキスト）法政大学通信教育部 一九八八年

「債権総論講義」信山社 一九九〇年

（一九九一年・2版、一九九三年・補訂3版、一九九五年・新訂3版・一九九七年4版）

「手形・小切手法の民法的基礎」 信山社 一九九七年

監 修

「債権法重要論点の研究」 酒井書店 一九八八年

論 文

(法社会学)

「小作調停法」 川島・福島その他編「日本近代法発展史講座Ⅶ」 勁草書房 一九五九年

(民法総則)

「仮定的債務者の処分授權の概念について」 私法二七号 有斐閣 一九六五年

「取得時効」 川島編「注釈民法(5) 総則(5)」 前注Ⅰ―Ⅱおよび一六一―一六五条執筆 有斐閣 一九七八年

「時効制度の存在理由」 加藤・米倉編「民法の争点」 有斐閣 一九七八年

「法人類型論と健康保険組合の法的性質」 法学志林八八卷四号 一九九一年

(物権)

「一七七条の第三者」 柚木・谷口・加藤編「判例演習物権法」 有斐閣 一九六三年

「取得時効と登記」 法学志林九五卷三号 一九六八年

「時効取得と登記の形式」 ジュリスト別冊 我妻編「不動産登記先例百選」 有斐閣 一九七〇年

「取得時効と登記」 石田編「民法Ⅱ・判例と学説Ⅱ」 日本評論社 一九七六年

「取得時効と登記―法的証拠説の立場から―」現代民法学の基本問題（内山・黒木・石川先生還暦記念） 第一法規
一九八三年

「登記請求権に関する試論―その発生原因と法的効果」加藤一郎編「民法学の歴史と課題」（求栖教授古希記念）
東大出版会 一九八二年

（債権）

「指名債権譲渡における債務者の異議なき承諾―（付）指図及び手形・小切手の新たな構成の試み（一）」法学志林
五九卷三・四合併号 一九八二年

「同上（二）」法学志林六〇巻一号 一九六三年

「同上（三）」法学志林六一巻二号 一九六四年

「債権の売買」契約法大系Ⅱ巻（松阪・西村・船橋・柚木・石本先生還暦記念）有斐閣 一九六二年

「債権譲渡の對抗要件」我妻編「民法の判例」ジュリスト増刊・基本判例解説シリーズ四（第一版・第二版）有斐
閣 一九六七年・一九七一年

「債権譲渡」谷口・加藤編「新民法演習三・債権総論」有斐閣 一九六八年

「盗難による印章および預金証書の持参人への誤払いと銀行の責任」ジュリスト五二二号 有斐閣 一九七二年

「指名債権譲渡における對抗問題と公信の原則」田中・山本編「債権総論・各論」法学書院 一九七五年

「弁済者の代位」田中・山本編「債権総論・各論」法学書院 一九七五年

「指名債権の二重譲渡と優劣の基準」我妻編「民法の判例」ジュリスト増刊基本判例シリーズ四（第三版）有斐閣
一九七九年

- 「債務引受」谷口・加藤編「新版民法演習三債権総論」有斐閣 一九七九年
- 「連帯債権者の一人に対する免除の効力」森島編「民法Ⅱ・判例と学説三」日本評論社 一九八〇年
- 「不法原因給付と所有権の帰属」谷口・加藤編「新版判例演習民法四」有斐閣 一九八四年
- 「賃貸人の地位の譲渡」現代契約法大系第三卷（遠藤・水本・林先生還暦記念）有斐閣 一九八五年
- 「弁済供託の性質」安達監修「債権法重要論点の研究」酒井書店 一九八八年
- 「弁済供託の理論構成」法学志林八五巻四号 一九八八年
- 「指名債権譲渡における異議を留めない承諾、再論——池田真朗および石田・西村両教授の批判に答えて」法学志林八九巻三・四合併号 一九九二年
- 「存在しない債権の譲受人への弁済と所謂三者不当利得論」続現代民法学の基本問題（内山・黒木・石川先生古希記念）第一法規 一九九三年
- 「法解釈学（実定法学）方法論と債権譲渡の異議を留めない承諾——池田教授の続稿に因んで——」法学志林九一巻四号 一九九四年
- 「再論・法解釈学（実定法学）方法論と債権譲渡（四六七条・四六八条）に関する幾つかの問題（一）」法学志林九二巻三号 一九九五年
- 「同上（二）」法学志林九二巻四号 一九九五年
- 「池田・安達論争をふり返って——池田教授の近稿にちなんで」法学志林九七巻三号 二〇〇〇年
- 「池田・安達論争の総括と反省——指名債権譲渡における債務者の異議を留め承諾の理論構成」法学志林九八巻三号 二〇〇一年

「処分授権概念の有用性——その中核と周辺、ならびに法解釈学方法論への寄与」『現代民事法学の構想——内山尚三先生追悼』 信山社 二〇〇四年

「第三者のためにする契約」『来栖三郎著作集(二)——契約法 財産法判例評釈(二) 債権・その他』信山社 二〇〇四年

「振込の全体的構造(一)——指図、電信送金契約から振込法へ」法学志林一〇六卷二号 二〇〇八年

「振込の全体的構造(二)——振込の無因性を中心に」法学志林一〇六卷三号 二〇〇九年

「振込の全体的構造(三)——他行間振込における階層的指図説(仮定的債権譲渡と債務者の処分授権の概念による)の提唱(一)」法学志林一〇六卷四号 二〇〇九年

「振込の全体的構造(四・完)——他行間振込における階層的指図説の提唱(二)(振込の不執行と損害賠償、資金返還を中心に)」法学志林一〇七卷一号 二〇〇九年

「概要・振込法の全体的構造——新たな理論構成の試み」法律時報八二卷七号 日本評論社 二〇一〇年

「続・振込の全体的構造——振込目的としての送金と決済、UCCにおける被仕向け銀行の 同意を得た振込依頼の撤回、その他」法学志林一〇八卷三号 二〇一一年

「振込から口座振替へ(一)」法学志林一〇九卷三号 二〇一二年
「同上(二・卷)」法学志林一〇九卷四号 二〇一二年

「先取り特権の概念による『価値のレイ・ビンディカチオ、騙取金による弁済、預金の帰属者、転用物訴権および直接訴権など』の構成(一)」法学志林一一〇卷三号 二〇一三年

「同上(二・完)」法学志林一一〇卷四号 二〇一三年

「債権の上の先取り特権と物上代位に関する試論」法学志林一一二卷二号 二〇一五年

「指図の法理と指図により構成される諸制度(その一)」「日本・ドイツ・フランス」法学志林一一五卷三号 二〇一八年

(手形・小切手法)

「手形の原因関係と手形関係」法学セミナー二〇〇号 日本評論社 一九七二年

「新白地手形法論(一)」法学志林七三卷二号 一九七六年

「同上(二)」法学志林七三卷三・四合併号 一九七六年

「同上(三)」新たな手形理論としての授權説による再構成」法学志林七四卷一号 一九七六年

「線引小切手の効果と本質」民事法学の諸問題(薬師寺先生米寿記念)総合労働研究所 一九七七年

「白地補充権の消滅時効」私法三九号 有斐閣 一九七七年

「手形行為独立の原則と証券上の権利の分属に関する試論」法学志林八一卷三・四合併号 一九八四年

「手形法上の利得償還請求権の構造」法学志林八六卷一号 一九八八年

「手形法における参加・複本・贖本と法解釈学方法論——仮定的債務者の処分授權の概念による新たな構成——」法学志林八八卷一号 一九九〇年

判例評釈

「書面によらない財産分与契約の取消」(札幌高裁 一九五〇・五・三一)「来栖教授と共同執筆」法学協会雑誌七一卷三号 一九五三年

「相続税を課された受贈不動産に対する不動産取得税の賦課」(札幌高裁 一九五〇・九・二〇)「杉村章三郎教授

と共同執筆」法学協会雑誌七一巻六号 一九五三年

「他世帯との同居を命じた判決と憲法二五五条」(最判 一九五一・三・二三) 判例民法法一九五一年度(東大判例研究会)

「罹災都市借地借家臨時処置法第二条第一項但書にいわゆる権原による土地使用者の意義——土地の無断転借人と右にいわゆる権原による土地使用者」(最判 一九五一・四・一二) 判例民法法一九五一年度(東大判例研究会)

「控訴審の取消差戻判決に対する上告の許否——行政処分と認められない文書送達の一事例——請求の変更と出訴期間」(最判 一九五一・一〇・一六) 判例民法法一九五一年度(東大判例研究会)

「自作農創設特別措置法の住所認定の一事例」(最判 一九五一・一二・二二) 判例民法法一九五一年度(東大判例研究会)

「自作農特別措置法上の住所と認められない一事例」(最判 一九五二・四・一五) 法学協会雑誌七三巻四号 一九五五年

「賃貸人が建物の自己使用を必要としない場合と正当事由の有無」(最判 一九五二・一〇・七) 法学協会雑誌七三巻九卷 一九五五年

「温泉の掘削が権利の濫用にならないとされた事例」(最判 一九五八・七・一) 法学志林五七巻一号 一九六〇年

「温泉法四条の趣旨——温泉法第三条二項にいう《掘削に必要な土地を掘削のために使用する権利》の意義」(最判 一九五八・七・一) 法学志林五七巻一号 一九六〇年

「登記簿上の所有名義人と特別財産」(最判 一九五九・四・一) 法学志林五八巻一号 一九六一年

「買戻特約の登記をしなかった場合における不動産買戻権譲渡の方法と対抗要件」(最判 一九六〇・四・二六) 法

学志林五八卷三・四合併号 一九六二年

「取得時効において無過失ではないとされた事例」(最判 一九六八・三・一) 民商法雑誌五九卷四号 一九六九年

「債権の二重譲渡と優劣の基準」(最判 一九七四・三・七) 民商法雑誌七二卷二号 一九七五年

「債権の二重譲渡と優劣の基準」(最判 一九七四・三・七) ジュリスト五九〇号(重要判例解説) 一九七五年

「手形を受戻した者の地位―自動債権である手形債権の時効消滅前に債務者が反対債権である手形債権を取得していたとして相殺の許される場合」(最判 一九七六・六・一七) 判例評論二二七号 一九七八年

「異議を留めない債権譲渡の承諾と消滅した抵当権の復活」一九九二・一一・六 ジュリスト別冊 椿編「担保法の判例Ⅰ」有斐閣 一九九四年

なお、以下の諸判例の解説を川井健編著「判例マニュアル民法Ⅲ債権総論」三省堂 一九九〇年に掲載

A 債権譲渡

「譲渡禁止特約付債権と重過失ある第三者」最判 一九七三・七・一九

「指名債権の特定遺贈と債務者に対する対抗要件」最判 一九七四・四・二六

「譲渡禁止の特約ある債権に対する転付命令の効力」最判 一九七〇・四・一〇

「特定の債権譲渡に対し債務者が事前に同意を与えた場合と民法四六七条一項の対抗要件の要否」最判 一九五三・五・二九

「譲渡禁止特約付債権が悪意の譲受人に譲渡された後になされた債務者の承諾の効力」最判 一九七七・三・一七

「債権譲渡における債務者の異議を留めない承諾と譲受人の悪意」大判 一九三四・七・一一

「異議を留めない承諾と抵当権の復活」大判 一九三三・八・一八

「債権譲渡に対する主債務者の異議を留めない承諾と連帯保証人の地位」大判 一九四〇・一〇・九

「指名債権の二重譲渡と優劣の基準」最判 一九七四・三・七

「確定日付のある債権譲渡通知の同時到達と譲受人間の優劣」最判 一九八〇・一・一一

B 債務引受

「免責的債務引受の要件（および契約上の地位の譲渡の要件）」大判 一九二五・一二・一五

重畳的債務引受の効力 最判 一九六六・一二・二〇

C 契約上の地位の譲渡

「契約上の地位の譲渡」最判 一九七一・四・二三

翻 訳

「ペーター・ギルレス《ローン提携取引の実際と民法上の諸問題》」法学志林七三卷一号 一九七五年

「ペーター・ギルレス《西ドイツにおけるローン提携取引と民法学》」法学セミナー二四九号 一九七六年

「ペーター・ギルレス《通信教育制度における受講者（顧客）の保護——西ドイツにおける通信教育保護法のための新立法とその消費者保護の発展における意義について——》」法学志林七七卷二号 一九七九年

（上記二編は、竹内俊雄編ペーター・ギルレス著「西ドイツにおける消費者法の展開」法学書院 一九九〇年に転載）

「書評」ベルント・レーベ《安達三季著・手形小切手手法の一般理論》について」(Wertpapier—Mitteilungen,

Nr. 42 nom 16 Okt. 1976) 「前田重行教授と共訳」 法学志林七五卷三・四合併号 一九七八年

「フリッツ・リットナー『私的自治と私法の優位性』」 法学志林八四卷二号 一九八七年

その他

「取得時効を担当して」 随想注釈民法第五卷 有斐閣 一九六七年

「ドイツでの論文出版のこと」 ジュリスト五七六号 一九七四年

「外濠公園から」 法政二四五号 一九七五年

「ギルレス教授のこと」 法政二九一号 一九七九年

「民法財産編の学び方」 「法学部のしおり」 政法大学通信教育部 一九八〇年

「時効と登記——時効によって所有権を取得したら」 幾代・好見編「不動産登記の法律相談」 所収 有斐閣 一九八二年

「薬師寺先生の人と業績」 法政三四一号 一九八四年（法学志林八二卷二号・一九八五年に転載）

「受験勉強と孤独」 受験新報 一九七八年七月号（「法学をめざす諸君に贈る言葉」 法学書院 一九八七年に転載）

「チャレンジングであれ」 「川島武宜先生を偲ぶ」 所収 日本評論社 一九九四年

「研究生活を振り返って——主要な研究論文の解説」 法学志林九五卷二号 一九九七年

「法発展の法則に関する四宮シェーマ〈巻頭言〉」 信託法研究二二号 信託法学会 一九九八年

「追悼 来栖三郎先生を悼む——その人と学問」 法律時報七一巻一号 日本評論社 一九九九年